

大町病院を守る会会報

No. 63

2018年9日月発行

大町病院を守る会

発行責任者北村喜男

病院の花壇草取りに 25 人

参加者へ手作り手差しの手プレゼント

大町病院花壇・ミニ農園の草取り作業が8月19日（日）早朝6時30分から1時間にわたり行われました。これは病院を守る会が病院の環境整備と患者・職員の癒しを進める活動の一環として毎年この時期に行っているものです。職員、守る会会員、太田久彦先生など25人が参加しあっという間にきれいに整備出来ました。

当日はやや曇りがちの空模様で、作業しやすい天気でした。玄関西側ロータリー内、南棟入り口、駐車場周辺、西側三角職員駐車場などの草取り・草刈りを行いました。終了後は冷たいお茶とせんべいで歓談しました。

また行事に合わせ会員の栗原洋子さんが色とりどりの鮮やかな防水の手差し40本を手作りし寄贈いただきました。この手差しは参加者の皆さんに持ち帰っていただきました。





草取りに汗を流す参加者

松林の木漏れ日の中バーベキューで交流会

7月21日（土）守る会は大町市運動公園の一角にあるバーベキューコーナーで病院の医師・職員と焼肉交流会を催し、意見交換懇談を深めました。

井上善博院長、青木俊樹副院長、関口健二先生、桑原良奈先生ファミリー、西沢看護部長等のみなさんでした。高木哲先生は緊急手術が入り急遽欠席となりました。残念！

牛越徹市長も参加され、病院再生への協力依頼と決意を述べられました。守る会は北村会長を先頭に役員が出席し、2時間ほど意見交換と懇親を深めました。

会場は松林の中木漏れ日がやさしくそそぎ、快適な環境の中でのばーばキューとなりました。



市民公開講演会 高木哲先生講演要旨（下）

（※このの記事は5月13日に行われた講演会の要旨を前号 62 号と今回 63 号に分けて連載しました。）

でもやっぱり鍵は、地域の力！

- ・ 地域の魅力、地域の力で、人口減少に歯止めを！
- ・ 地域の魅力、地域の力で医師確保を！
- ・ 負のスパイラルではなく、正のスパイラルを巻き起こそう

臨床研修者数と常勤医数の推移

	H25	H26	H27	H28	H29
当院初期研修医	0	1	1	2	5
当院後期研修医	0	0	2	3	3
他院からの研修医	7 人 136 日	12 人 576 日	10 人 528 日	11 人 542 日	9 人 444 日
学生	8 人 59 日	13 人 106 日	9 人 157 日	7 人 131 日	26 人 478 日
常勤医	17	19	17	18	21

住民主体の医療づくり

研修する学生、研修医にホームステイをしてもらうことで、地域に関心や親しみを持ってもらう取り組み



地域医療を守り育てる五か条

- ・ 一、かんしん（関心）を持とう
- ・ 二、かかりつけを持とう
- ・ 三、からだづくりに取り組もう
- ・ 四、がくせい（学生）教育に協力しよう
- ・ 五、かんしゃ（感謝）の気持ちを伝えよう

大町でもできる

- ・ 住民、行政、医療、介護が地域ぐるみで、今後のこの地域の問題を考え、よりよい地域となるように連携していく必要がある
- ・ 医療の問題はその一部だが、医師確保を大学へ依存している時代は終わり、これからは地域に必要な医師を地域で育てていくことが必要。
- ・ そのためには、総合診療科による学生や研修医とのつながりと、地域の魅力、地域の力が重要になるのでは？

これからの大町病院の姿

- ・ 人口減少地域であり、医療需要は徐々に減り、介護需要が急激に増大していくとの予想

- これに対応していくことが必要
- ベッドを 278→199 に、これによる加算あり
- 内科は総合診療科を中心に、外来―入院―在宅、施設を一貫としてみていく地域包括ケアのモデルとなるべく発展させていく。そしてその教育の場となることで、学生や研修医を取り込んでいく。



そして・・・

- 総合診療科を中心に、若手を集め
- 総合診療科の力で、大町に魅力を感じる仲間である専門医を地道に集めていく
- そのためにも、地域の魅力、地域全体で医師を育てる力、医師を歓迎する雰囲気が必要
- 病院と地域が一体となって、医師を集め、地域づくりをしていく
- 地域に一つの病院というメリットを生かす！

守る会への要請

研修医と交流を深めるために

自分の職業の技術を伝える、地域の文化をつたえる、観光ガイドをする、農作業を伝える、ホームステイを受け入れる、何かを創造する、魚の釣り方を教える、楽器演奏を教える、スポーツに誘う、大町の歴史を紹介する、登山に誘う、郷土料理の作り方を教える等、自らの技術や特技を伝えてくれる方を探しています。

守る会で協力者を募集します

研修で大町病院へ見えられる先生は年間短期研修などを入れるとかなりの数に上ります。

近隣の病院で研修生・医が来るのは大町病院だけです。研修を終わってそのあと大町病院や大町の住民の印象が良ければ再び大町へ帰ってきてくれはしないだろうかと考えます。医師は人生の中で何回か病院を移動します。そんな時、過去に暮らしていた大町病院を思いだすことがあるのではないのでしょうか。高木先生の提案に応えるべく、守る会会員はもちろん広く市民に訴えます。

申し込みは守る会事務局次長高橋博久電話 090-4054-2747 迄。

会費の納入者（順不同:敬称略）・・・ありがとうございました

個人会費 相模一男（2口） 大日方三郎 宮坂陽一 一志寿栄 松本武子 川上節子 中村康貴
澤渡勇治 石川智朗 合津幸一 降旗剛 鎌倉一幸 倉科健一 高橋袈裟登 西澤忠司 西澤菊子
前田敏博 宮下文雄 吉澤伸 原恵 青木俊樹 渡辺逸雄 北野憲雄 勝野礼二 松下はつみ 西山孝 大日方伸一 北澤一人 宮下敬一 倉科幸 若林茂男 降旗菜穂子 伊藤甚弐 浅見昌敏
松坂広 中島一郎 梶和彦 大日方宗仁 吉岡寿美代

団体会費 きはだ飴本舗 大北保険薬局事業協同組合 峯村組 病院職員労働組合
ハーヴェスタ・クリエイションズ 明日香荘 養老の滝駅前店 市体育協会

寄付 大日方三郎 大日向明 西澤千文 養老の滝駅前店 宮下敬一

前号納入者大日方修さんは小日向修さんの誤りでした。お詫びし訂正します。